

2020年ドバイ国際博覧会における 日本館のテーマとメッセージ（案）

博覧会推進室

平成29年12月

第1回検討会を踏まえた日本館テーマ等の検討に際しての視点

- 日本館のテーマ・メッセージを設定する際に重視すべき視点として、以下が考えられるのではないかと？
- ・ メインテーマである“Connecting Minds, Creating the Future”を深掘りし、日本館のテーマ・メッセージを探求すること。
- ・ 日本のアピールポイント・勝てるポイントが明確な形で含まれており、外国人にとって分かり易いテーマ・メッセージであること。
- ・ 「技術」そのものを表現するのではなく、技術が世の中や人の在り方を変えていくことを示すこと。他国と差別化できる日本の価値観を示すこと。
- ・ 2025年国際博覧会の日本（大阪・関西）開催を見据えて、そのプレとなるメッセージを発信すること。

テーマ案①

- キーコンセプト：多様性と共創
- テーマ案：未来を共に創る（Co-create Our Future）

【メッセージ】

国境、文化、人種。

世界には多様性があり、同時に様々な垣根が存在する。

こうした目に見えない壁を乗り越えた協業によってこそイノベーションは起きる。

日本は古来より、異なる考えや文化を柔軟に吸収し、独自のものへと昇華させてきた。

これからも、そうあるべく歩みを止めることはない。

日本館においては、2025年国際博覧会を見据え、

世界とともに地球規模の課題に取り組み、

世界を先導する日本の姿を国際社会に発信する。

テーマ案②

- キーコンセプト：「つなぐ」技術と人
- テーマ案：「よりつながっていく世界で、より良く生きる」
(Live Better in a more “Connected” World)

【メッセージ】

次世代モビリティ、IoT（モノのインターネット）、自動翻訳。
場所と場所、モノとモノ、人と人をつなぐ技術はますます発展し、
私たちの住む世界はますます相互につながっていく。
一方で、技術の変化は、日常生活のあり方、雇用のあり方など、
私たち人間のあり方そのものに変化をもたらす。

日本館では、今後、「つなぐ」技術がどのような可能性をもたらすかを示すとともに、
それが私たちの暮らしにどのような変化をもたらすのか、
来訪者一人一人に問いかける。

テーマ案③

- キーコンセプト：美しい調和
- テーマ案：和の精神が未来を切り拓く
(Japanese “Wa” opens the way to the future)

【メッセージ】

世界は相互依存を深め、ますますつながっていく一方、異なる考え方や文化に対して排他的な動きも見られる。

このような時代だからこそ、

日本人が歴史的・地理的背景から培ってきた異質なものに対する寛容さに、もう一度光を当て、日本の価値として世界に発信していくべきではないだろうか。

日本館では、日本が培ってきた和の精神を体験してもらうとともに

日本が世界規模の課題にどのように貢献できるのか、

その一つのアプローチを示す。

【参考】第1回検討会における主なご意見

- ・日本が抱えている課題を世界に先駆けて解いていくような視点を出せるとよい。
- ・「Society5.0」は技術を前面に出した議論ではない。技術が世の中を変えていくことを示すことが大事。ある意味で、人のあり方を考え直す時代に入った、という議論。
- ・「Connectivity」そのものが面白い。「Connectivity」そのものを進化させるように掘り下げていければ興味深い。
- ・自分に自信を持って、「こういう考え方に基づいて、世界をリードしていく」と主張するべきである。日本のブランドをつくっていく場所という視点が必要。
- ・技術面からみるとどの国もほぼ同一線上にある。その中で日本のアピールポイント、勝てるポイントを見つけ、それをテーマに結び付けることが重要。
- ・日本人の持つ「美しい調和」が大事。
- ・2020年における「Look East」が大事。ハブであるドバイから見て、日本は東の端。その東洋の国であるからこそできることを示すことが重要。
- ・何を示すのか、どんな価値観を示すのかということを重要視すべき。技術はあくまで表現の手段。

【参考】第1回検討会における主なご意見（つづき）

- ・2025年国際博のキーワードである「People's Living Lab」を2020年ドバイで行うべき。
- ・「結ぶ」という言葉は、日本人にとって非常に大事な言葉。日本は様々なものと結びつきあいながら文化をつくってきた。東洋ならではの価値観、感性ともつながる。
- ・イスラムでは基本的に大家族で暮らし、お年寄りを大事にする。家族の絆を強く持っている。
- ・色々な文明が栄えた地域のため、古い文化に対する憧れのようなものと、新しいものを受け入れる気持ちが混在している。この点も検討していかなければいけない。
- ・日本の特徴は様々な感性のバランスが良いこと。これは「和」の精神に通ずるもの。日本人は自分たちの良さを出すことを躊躇しがちだが、遠慮せずに発信すべき。
- ・業界の垣根を超えたオールジャパンとして何を出していくべきなのかを検討し、課題先進国として世界にその存在や取り組みを見せていくべき。
- ・ドバイ万博が、日本ならではの「共創」のきっかけとなり、見せるべきものをしっかりと作り発信できる場所になることを願う。2025年博に向けての実験としても、新しいチャレンジをしていくべき。